



倉西 雪子さん

福まちの人

活動のきっかけは？

以前は、中央区に住んでいましたが、生活環境の良い清田区に転居して15年くらいになります。転居してからも勤めに出ていましたが、退職後に何かやらなきゃ!と思っていたところ、当時の町内会長さんから、手伝ってくれないかと声を掛けられたのがきっかけでした。福祉厚生部長になってからは、4年くらいになります。

普段の活動について教えてください

町内会の福祉厚生部は、各班に部員1名をお願いしており、全12名で構成され、年3回ほど会議を設けています。この福祉厚生部に、町内会長をはじめ各役員さん方や民生委員さん方が加わって、福祉推進委員会が組織されています。現在、70歳以上のお一人暮らしの方18世帯、80歳以上のご夫婦が10世帯、その他気になるお宅7世帯を対象に見守り活動を進めています。スローガンとして“声かけ 見守り 明かりの見守り (特に電気が付いているかどうかを気にする意味)”を掲げていて、私の場合は、月に1回程度の頻度で気になる方のお宅を訪問するようにしています。

地域に対して感じていることは何ですか

夏に「あさひ公園」でラジオ体操が行われますが、子どもは勿論のこと一般参加者が非常に多く、地域のコミュニケーションの良さを感じます。また、老人クラブの「東友会」さんの活動が盛んで、見守り活動と連動しているので、正直、私たちの負担感を軽くしてくれることがありがたいです。町内会の敬老会は、他と違い10月に開催しています。だいたい50名くらいの方々が参加されますが、最後に全員でコーラスを奏でることになっています。みんなの歌声を聴きますと、この町内会の「ふれあい」を感じることができます。



みんなでコーラス

これまでの活動を通じて、特に印象に残ったことは何でしたか

若くして息子さんを亡くされた方から、息子さんが愛用していたドラムを寄贈できたという相談を受けたことがあります。どこかの学校で使ってもらえないかなと、何の伝手もなく電話したところ、快くお引き受けしていただきました。住民の思いや願いを繋げることができた思い出です。

今後に向けて思うことを教えてください

最近、近くのセブン・イレブンさんで見守り活動で連携できるようになりました。福まち活動交換会で紹介されていた店舗さんで、福祉厚生部の会議にも店長さんが出席してくれます。高齢化が進むとともに、特に冬期間の買い物に不安が増しているため、同店の配達に地域生活に有益だと感じます。こうしたつながりも重要になってきます。

それと、福まちの取り組みとして、対象者宅に救急医療ポストを配布しています。ポストの中に入れるカードには、緊急連絡先を記載する部分もあります。周囲に頼れる人がいない方も少なからずおられ、私の連絡先を書いてもらうようにしています。受け皿とっては大きいかもかもしれませんが、遠くの親戚より近くの他人を肌で感じる時です。



祝い品の
手作り
コースター

